

第69回日本PTA九州ブロック研究大会

長崎大会

令和6年10月26日(土)～10月27日(日)

報告書

第1次案内

2024 PTA Nagasaki

学びを実践へ!
～集まろうで 語り合おうで やってみようで～

第69回 日本PTA九州ブロック研究大会

長崎大会

大会1日目 分科会 大会2日目 全体会
令和6年 10.26土 10.27日
受付開始 12:00 開会 13:00 受付開始 8:30 開会 9:00

出島メッセ長崎

参加者/九州ブロックPTA関係者(約6,000人)

九P長崎大会
ホームページ

主催/九州ブロックPTA協議会 主管/長崎県PTA連合会

〒850-0001 長崎県長崎市出島1-1-1 出島メッセ長崎
九P長崎大会事務局
090-9500-0000

報 告 書

大会名	第69回日本PTA九州ブロック研究大会 長崎大会 【大会スローガン】 学びを实践へ！ ～ 集まろうで 語り合おうで やってみようで ～		
日 時	分科会：令和6年10月26日（土） 全体会：令和6年10月27日（日）		
場 所	長崎県長崎市 出島メッセ		
分科会	<第1分科会> 組織・運営 提言：福岡市、宮崎県 <第2分科会> 家庭教育 提言：熊本市、鹿児島県 <第3分科会> 人権教育 提言：大分県、 <u>福岡県（宗像市立中央中）</u> <第4分科会> 教育環境 提言：北九州市、熊本県 <第5分科会> 広報・地域連携 提言：佐賀県、沖縄県 <特別分科会> 今日の課題 パネリスト：10名		
報告者	鬼頭 良典	分科会	第3分科会 人権教育
<ul style="list-style-type: none"> ○ 長崎大会は、1会場集中開催で参加しやすいと感じた。 ○ レセプションから参加しましたが、長崎の伝統文化に触れることができ、とても有意義な大会であったと思う。 ○ 1日目の分科会では、福岡県から宗像市立中央中学校が発表いただきましたが、多くの建設的な意見交換ができた。 また、グループディスカッションの時間が設定されており、他のPTAの活動を知ることができ、参考になるものが多かった。 ○ 全体会では、野々村由紀子さんにご講演いただき、学びを深めることができました。 ○ きらりと輝く九州人大賞では、福岡県からご推薦させていただいた方が、大賞に輝き、うれしく感じた。 			

報告者	杉山 美智子	分科会	第2分科会
-----	--------	-----	-------

10月26日（土）

実践発表の2校を1校ずつ聞いて周りの方々6人とディスカッションをするスタイル。1校目はたくさんのイベントを紹介され、充実したPTA活動を聞き、その後ディスカッションでは、PTAの大切さは分かっているものの成り手がいない、イベントが少なくなりつつある、ボランティア制にしてもなかなか人が集まらない等、参加する保護者が少なくなっていると後ろ向きな話が多く聞かれた。

そして次の実践発表を聞き、そこでは少ない人数だからこそ出来ることを発表され、特に自己有用感を高める取り組みをされていた。他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚と定義し、授業や行事を通して1人1人の良さや人権尊重の精神育成に取り組んでいると言う。それを聞いた後のディスカッションでは後ろ向きな話ではなく、学校・地域・各団体と手を取り合い協力と工夫で今後も家庭教育を考え楽しく参加できるようなPTA活動やっていきましょうと話がまとまり、前向きに終わる事ができ清々しささえ思えた。

10月27日（日） 強く生きるためのヒント『野々村由紀子氏』

テレビで見ていた感じではバサッと切りながら淡々とお話しされると思いきや、構成作家でもありエッセイストでもあることから、視点を変えながらも聞いている皆さんを巻き込み笑いを取って最後はうなずける、さすがだなあと見入ってしまっていた。

何か1つでもいいことをメモに取り次につなげようと思いつつも、これは現場で見て聞いて感じることでヒントを得るものだと感じ書くのをやめ、最後まで大満足の公演だった。1つ何をメモしていたかと言えば、お礼の速さは気持ちの深さ。人間関係これは大事だと感じたのであろう。

役員会・理事会への提案事項

九州大会は来年、福岡市で開催されるので、行くのも近いし、九州各県の方との話が盛り上がることと思いますので、是非いかれてください！

特に理事の方は教職員の方にもお声がけいただくと繋がりが持て、学校運営の活性化にも繋がることと感じます。

報告者	星野 美由紀	分科会	特別分科会
-----	--------	-----	-------

10月26日

今日的課題【ホンマでっか!? P T A】

討議題：P T A改革を真正面から考える

共働き家庭の増加、学校における働き方改革等によりP T Aを取り巻く環境は大きく変化している。そもそもP T Aの目的は「子どもたちの健全育成」。その目的を達成させるためにも

- ・ P T Aの役割の見直し強化する
- ・ P T A活動の効率化
- ・ 保護者、教職員の参加促進の工夫

といったさらなる改革が必要。

それは、活動の縮小や削減を主とするのではなく、目標の達成や活動の充実を目指した改革を行っているP T A活動を紹介しながら討議が行われた。

- ・ 学級懇談会や土曜授業を利用して交流の場を作る取り組み

〔内容〕担任と執行部で事前打ち合わせ、地域の協力を得て託児サービスを行う

〔目的〕先生と保護者の交流（茶話会形式）、子どもたちの問題を早期発見、交流を通して挨拶や相談ができるようにする

〔期待される効果〕孤独にならない、楽しく繋がる、支え合うことができる

疑問を持てば、すぐにネット検索で解決できる現代。子育てに関しても、そのように解決できることもあるかもしれないが、顔も名前も知らない人の意見をどこまで信用できるのかということも併せて考えた方がいいなと思いました。

また、委員会や役員、活動においても、目的をはっきりとすることはもちろんだが、それがどのように影響しどんな効果があるのか明確にすれば賛同、納得できる人は今より得られるのではないかと感じました。

10月27日

演題 ～強く生きるためのヒント～

講師 野々村友紀子氏

T Vで見受けられる通り、軽快な口調とユーモアがふんだんな表現力で終始笑いの絶えない講演会でした。

特に印象的だった言葉は「考えるな、寝ろ！」

嫌なことや嫌いな人との出来事を思い出して考えていても、相手には何のダメージを与えることはできない。何の特にもならない....といったもの。他にも、野々村さんと娘さんの日常的なやり取りの様子を聞きながら、わが子への接し方について、いろいろと思いを巡らせ、励まされた講演会でした。

報告者	平嶋 祐介	分科会	第4分科会
<p>研修会に参加して、私自身が感じましたことを以下にまとめて報告いたします。</p> <p>(感想)</p> <p>第69回日本PTA九州ブロック研究大会長崎大会に参加しました。今大会では、提言発表をもとに参加者同士で話し合い、学び合う6つの分科会が設けられました。各自が希望する分科会に分かれ、ワークショップ形式での研修が行われるとともに、「今、目的と課題」をテーマに、参加者アンケートをリアルタイムで共有しながら進めるパネルディスカッションなども実施されました。</p> <p>全大会では、長崎の伝統芸能である「龍踊（じゃおどり）」が歓迎アトラクションとして披露されました。その迫力ある演舞は圧巻で、参加者一同を魅了する素晴らしいものでした。</p> <p>野々村友紀子氏による『強く生きるためのヒント』の記念講演では、心が挫けない子育てについて、「悩んだら考えずに寝ろ」や「反抗期の子どもは子どもが悪いのではなく、成長ホルモンが悪いんだ」といった視点を提供してくださいました。</p> <p>このように視点を少し変えるだけで、大人たちの子どもへの捉え方がポジティブに変わることを教えていただき、大変考えさせられる内容でした。</p> <p>参加者の皆さんも、これからの子育てに役立つヒントを得られた様子でした。</p> <p>他県の参加者と現状や課題、そしてこれからのPTAのあり方について意見を交わす貴重な機会となり、大変有意義な時間を過ごすことができました。</p>			
報告者	藤原 健太郎	分科会	特別分科会
<p>1日目は息子の発熱により、急遽欠席となってしまった。特別分科会に参加予定で任意加入や現在のPTAの問題など、小学校に持ち帰って今後のPTAについて役立てようと考えていたため、とても残念だった。</p> <p>しかし、家庭があつてこそ、また子どもがいてこそそのPTAなので欠席という判断は間違えではないと思った。</p> <p>2日目の記念講演では、難しい年ごろの子供への接し方など体験談をもとに話していたため、これから迎えるであろう反抗期の子供への接し方はとても参考になった。メディアにも出演しているため、話しに飽きが来ることなくあつという間の60分だった。</p>			
役員会・理事会への提案事項			
<p>内容について座談会のような感じで良いので、後日、感じたことなどを話す機会を作ること、参加できなかった分科会や忘れていた内容などを思い出すこともでき、良いのではないかと思った。</p>			